

目 次

I	はじめに	1
II	研究の実際	
1	特別支援学級における個に応じた指導の実際	
(1)	中学校理科での授業実践	3
(2)	授業実践の考察	9
2	通常の学級に活かせるユニバーサルデザインの取組	
(1)	学習支援における取組	11
①	説明のユニバーサルデザイン	
②	理解のユニバーサルデザイン	
③	学習教材のユニバーサルデザイン	
④	学習環境のユニバーサルデザイン	
(2)	生活支援における取組	23
①	活動の見通しのユニバーサルデザイン	
②	日常生活のユニバーサルデザイン	
(3)	学校全体における取組	32
①	教室環境のユニバーサルデザイン	
②	学校行事のユニバーサルデザイン	
③	保健室のユニバーサルデザイン	
III	研究のまとめ	
1	研究の成果	38
2	今後の課題	40

「個に応じた支援から全校的な支援体制へ」 ～ユニバーサルデザインを活用した実践を通して～

宇都宮市立晃陽中学校 川 俣 貢 裕
鹿沼市立北押原中学校 千 葉 朝 明

I はじめに

平成18年、国連総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、我が国においても、平成23年8月の「障害者基本法」改正等、法整備を行い、平成26年1月には、国際連合事務局より批准が承認された。

「障害者基本法」第16条第1項に、

「国及び地方公共団体は、障害者がその年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにするため、可能な限り障害者である児童及び生徒が健常の児童及び生徒とともに教育を受けられるよう配慮しつつ、教育の内容及び方法の改善及び充実に努める等必要な施策を講じなければならない。」

とある。

学校においても「特別支援教育」として新たに障害者教育のスタートが切られた。また、平成24年には文部科学省初等中等教育分科会より、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が報告され、インクルーシブ教育システムを学校現場において推進することが示された。

これまで、特別支援教育においては、児童生徒一人一人の実態を把握し、個々の教育的ニーズに応じた教育的支援を行うことで、社会的に自立するために必要な支援を行ってきた。近年、学校現場の状況を鑑みると、LDやADHD、自閉的傾向等を持つ児童生徒数は、特別支援学級のみならず、通常の学級においても増加傾向にあり、学習や生活面における教育的支援はますます重要になってきている。

そこで、栃木県教職員協議会特別支援教育部会では、これまで特別支援学級で行われてきた様々な個に応じた支援を、学習面、生活面ごとに分けてまとめ、それらをユニバーサルデザインの視点から「通常の学級においても取り入れられないか」と考えた。通常学級の授業を特別支援教育の観点から見直し、ユニバーサルデザインを導入することにより、教育的支援の必要な児童生徒が学びやすく、「困り感」が少ない授業につながる方策を提案したい。

ユニバーサルデザインとは、障害者の権利に関する条約第2条において次のように定義されている。

「ユニバーサルデザイン」とは、調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲ですべての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための支援装置が必要な場合には、これを排除するものではない、と定義されている。

(文部科学省：1 特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告「3 障害のあるこどもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備」より)

ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方であり、これに対して、バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方である。

このユニバーサルデザインの考え方を、発達障害のある児童生徒ばかりでなく、通常の学級の児童生徒の指導にも活かすことによって、全ての児童生徒にとって、より分かりやすいものにしていこうというものである。

Ⅱ 研究の実際

1 特別支援学級における個に応じた指導の実際

(1) 中学校理科での授業実践

第2学年 理科学習指導案

特別支援学級 1組

授業者 教諭 千葉 朝 明 (T1)

講師 梅 宮 尚 子 (T2)

1. 単元名(題材名) 動物のくらしやなかまと生物の変遷

3章 感覚と運動のしくみ

2. 単元目標

- (1) ヒトの目や耳、皮ふなどの感覚器官に興味をもち、進んでそのしくみを調べようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) ヒトの反応時間を調べる実験結果において刺激を感覚器官で受け取ってから反応が起こるまでのしくみを考察することができる。(科学的な思考)
- (3) ヒトの反応時間を調べる実験を行い、そのデータを分かりやすくまとめることができる。(観察・実験の技能・表現)
- (4) 感覚器官で受け取った刺激によって、いろいろな反応が起こるしくみを説明することができる。(知識)

3. 単元(題材)について

(1) 教材観

本教材は、ヒトのからだを扱っており、生徒が実感や体感をもって学ぶことができる教材である。感覚器官について、与えられた刺激がどのように伝わり、運動に結びついているのかを実験を通して理論的に学び、理解することができる。ヒトのからだには、普段は意識していないが、とても効率的に生命を維持するためのしくみが備わっていることに気付かせ、自分のからだを大切にしようとする気持ちをもたせることができる単元である。この教材では、身近な自分の場所に対して、言葉だけではなく、身をもってからだを動かし、なるほど、そうなのかなと生徒一人一人が思えるような授業を展開したい。

(2) 生徒の実態

学習への興味や関心があり、実験には積極的に参加していても、理論を学ぶ場面になると、急に消極的になってしまう生徒が多数いる。基本的な内容の理解が伴っていないために、実験の結果を整理して考えることに難しさを感じているものと思われる。また、文字や文章を書くことに抵抗がある生徒も多い。そこで、説明の言葉が長くならないように焦点化することや教材や資料提示の方法を工夫して視覚的に分かりやすく指導することを心がけたい。

(3) 指導観

本校の生徒たちには、日々生活する中で、どのようにしたら自分の体の健康を維持し、快適な生活を送ることができるかを考える機会が必要である。五感（目、耳、口、鼻、皮膚）により、刺激が脊髄、脳へと伝わり反応することができることをしっかりと理解させたい。このことが、生命の尊さや健康の維持、よりよい生活習慣を意識した生活につながるものと考え。実験を通して、自分の考えや思いを伝え合うことで、お互いに認め合い、学び合えるような学習活動を展開したい。

4. 指導計画（全 8 時間扱い・本時 5 / 8）

第 1 時	感覚器官の種類
第 2・3 時	感覚器官のつくりとはたらき（実験 1）
第 4 時	中枢神経と末しょう神経
第 5 時	刺激を受けたときの反応と反射（実験 2）(本時)
第 6 時	骨格と筋肉（実験 3）
第 7 時	運動のしくみ、けんと関節
第 8 時	補助実験　まとめ

5. 学校課題との関連

本校の学校課題は「認め合い学び合う授業の創造」である。認め合い、学び合うためには、自分の考えや気持ちを伝えようとする意欲をもつこと、相手の話や意見をしっかりと理解することが必要となる。そのためには、話を聞こうとする態度、姿勢の定着、相手に分かるような話し方の理解が重要だと考える。そこで、本単元では実験を通して自分で感じたことや、分かったことを相手に伝えることを大切にさせたい。また、相手に分かるような話し方の習得を目指しながら、話を聞こうとする態度や姿勢を意識させて、認め合い、学び合う授業にしたい。

6. 研究主題との関連

特別支援学級において個に応じた指導を行うためには、生徒の実態を正しく把握した上で、適切な個人の目標を設定し、丁寧に支援していくことが大切であると考え。本時は、ユニバーサルデザインの考え方を活かして、視覚的な情報を多用したり、ワークシートやヒントカードなどの教材を工夫したりすることで、一人一人に言葉かけをする際にも、説明の言葉を焦点化して学習内容を理解できるように支援したい。また、五感を大切にした実験活動を取り入れることで、特別支援学級の生徒一人一人が、「分かった、理解できた。」と実感できるような授業を展開したい。

7. 人権教育との関連

本単元では、実験を通して、教師との関わりや友達同士の関わりの中で、自分が気付いたことや理解したことを表現することをねらいとしている。このことと本校の「人権において育てたい能力・態度」との関連は以下になる。

互いの考えのよさやちがい、感じ方のちがいについて気づき、互いに深めることができる。(実践力)

8. 本時の指導(本時5／8校時)

(1) 題目 動物のくらしやなかまと生物の変遷

第3章 感覚と運動のしくみ

(2) 本時の目標

ア 意識して起こす行動の刺激の伝達経路が、刺激→感覚器→感覚神経→脊髄→大脳→脊髄→運動神経→筋肉であることを理解する。

イ 無意識に起こる反応(反射)の刺激の伝達経路が、意識して起こす行動とは違うこと(大脳を経由しない)を理解する。

ウ 周囲の友達に対して、積極的に実験で分かったこと、理解できたことを話したり、聞いたりすることができる。

(3) 授業の観点

本時では、次の2名の生徒を特に「生かしたい生徒」とし、個別の支援によって、どのように変容したかを詳しく見取りながら、指導と評価の一体化を図りたい。

〈生かしたい生徒〉

生徒2：教師の話をさえぎって、勝手な行動をしたり、実験の手順を理解しないまま、始めようとしたりすることが多く見られ、基本が身につけにくい生徒である。そこで、よく話を聞き、落ち着いて実験に取り組めるよう、そばに寄り添って支援し、がんばれたところを称賛することで達成感をもたせたい。

生徒5：「自分はできないことが多い」と、マイナス思考になりがちな生徒である。分かりやすい内容を積極的に答えさせ、学習して分かったという実感をもてるように支援していきたい。成功体験を積み重ねることで、自己肯定感も高まるようにしたい。

(4) 本時に関する生徒の実態、個人目標、個別的な支援

生徒	実 態	目 標	個人的な支援
1	手順は理解できるが、文章を書いたり発表したりするのが苦手。うまくいかないことがあると固まってしまふことがある。真面目な性格で自信があることに対しては積極的に取り組む。	• 本時の活動内容を理解し、実験に進んで参加することができる。 • 友達の話最後まで聞き、自分の考えを発表することができる。	• 活動内容を理解しているかを確認しながら、実験を進めるようにする。 • 自分で考えたことを堂々と発表できるように、ヒントカードを用意して、発表しやすいように支援する。
2	落ち着きがなく話を最後まで聞けないことが多い。また、手遊びをしたり、ペンをいじったりして学習に集中することが難しい。興味のあることについては集中して取り組む。	• 本時の活動内容を理解し、実験に進んで参加することができる。 • 今、何をやる時間なのかを意識して、落ち着いて学習することができる。	• 関わりをもつことで授業に意欲をもって臨むことができるので、最後まで話を聞けるように本人の目を見ながら話したり、声かけを多くしたりする。 • 本時のめあてや実験の手順を黒板に掲示して、学習内容をよく理解できるようにする。
3	落ち着きに欠く場面も多いが、授業では進んで発言するなど意欲的に取り組むことができる。実験が大好きで、積極的に取り組むことができる。	• 活動内容を理解し、実験に進んで参加できる。 • 実験の手順が分からない友達に教えることができる。	• 落ち着いて実験に取り組めるように、発言内容や行動を称賛する。 • 実験の手順を視覚情報として提示することで、周囲の友達に説明できるようにする。
4	おおらかな性格で授業に真面目に取り組む。何回も繰り返し学習して、理解しようとして一生懸命努力することができる。誰とでも協力して物事に取り組む。	• 学習の活動内容を理解して、実験に参加することができる。 • 友達と協力しながら率先して実験に取り組むことができる。	• 活動内容の理解ができるようにT2が寄り添って支援する。 • 授業に集中して臨めるように声をかけて意識を高める。 • ワークシートを活用して、取り組みがスムーズに進められるように支援する。
5	活動内容を理解することが困難である。できないことをまわりに知られたくないという気持ちが強く、分からない状態でも、そのままにする場面が多い。	• 活動内容を理解し、実験に参加することができる。 • 最後まで話をよく聞いて、自分の考えを発表することができる。	• 活動内容を理解した上で実験に参加できるように、分かりやすい説明の図を提示する。 • ヒントカードを用意して、自分の考えを発表しやすいように支援する。 • ワークシートを活用して大切な言葉に注目させ、理解していることを見つけて称賛する。
6	活動内容を理解することは難しいが、興味のある内容については、一生懸命学習に取り組もうとする。	• 活動内容を理解し、実験に参加することができる。 • 身近な内容についての質問に対して、一生懸命発表することができる。	• 活動内容を理解できるように分かりやすい図を提示し、ヒントカードを用意することで、理解を深めさせながら、実験に参加できるようにする。

(5) 本時の展開 ◎学校課題との関連 * 人権教育上の配慮 ○生かしたい生徒

時間	学習活動	教師の支援
3	1. 立腰、あいさつをする。 ・教師からの問いに答える。 2. ねらいを確認する。 ねらい 受け取った刺激がどこへ、どのように伝わるかを知る。	・学習に取り組む姿勢を整えさせる。 ・目から入った刺激を口に出して答えるまで意識をしていることに気付かせる。 ・ねらいが理解できたか確認する。
7	3. 実験1の手順について説明を聞く。 ・実験1を行う。 ・結果をワークシートに記入する。 ・結果から分かることを発表する。	・手順が分かるように、教師主導で行い、2回目から生徒が主体的に実験をできるようにする。 ・選択式のヒントカードを用意して、生徒が考えやすいようにし、発表させる。生徒3～4人に1人教師が入る。 ・一連の流れをワークシートに書き込めるように支援する。
15	4. 実験2の手順について説明を聞く。 ・実験2を行う。 ・結果についてワークシートに記入する。	・生徒に結果を予想させ、刺激が伝わるまでに時間がかかることを実感させる。 * 男女での並び方に配慮する。 ・定規の落下実験と同じような経路をたどることに気づかせる。 ・経路を示すカードを用い、ワークシートにまとめやすいようにする。
15	5. 実験3の手順について説明を聞く。 ・明るい場所と暗い場所で瞳孔の大きさを手鏡を使って調べる。 ・結果について実験1, 2とちがう点を考え、発表する。 ・反射の利点について考える。	・手鏡に長さが分かるシールを貼り、計測しやすいよう支援する。直接外の光を鏡で目にあてないよう注意させる。 ・意識して瞳孔の大きさは変えられないことを理解させる。 ・無意識に起こる反応には何があるか考えさせる。 ・反射の利点について分からない生徒がいる場合には、熱いものを触るときや、急にボールが目の前に近づいてくるときの反応を示す。 ・利点について考えが頭の中で浮かんでいても、言葉にまとめられない生徒には、ポイントとなる言葉を示す。 ◎友達の発表が最後まで聞けるように、あらかじめ聞く姿勢を意識させるような声かけをする。 ○生徒2・5が最後まで話を聞くことができた際には、しっかりほめる。 ・反射の経路は短いことにより、危険から自然と自分のからだを守っていることに気付かせる。
10	6. まとめをする。 7. 本時の振り返りをする。 8. 立腰、あいさつをする。	・ねらいを振り返り、受け取った刺激がどこへどのように伝わるのかを黒板上で確認する。 ・いくつか具体的な事柄を例示し、反応か反射かを答えさせる。 ・次時は骨格と関節の学習をすることを話し、場所がどこかを示して授業を終える

(6) 評 価

ア 意識して起こす行動の刺激の伝達経路が、刺激→感覚器→感覚神経→脊髄→大脳→脊髄→運動神経→筋肉 であることを理解することができたか。

(観察・ワークシート)

イ 無意識に起こる反応（反射）の刺激の伝達経路が、意識して起こす行動とは違うこと（大脳を経由しない）を理解することができたか。

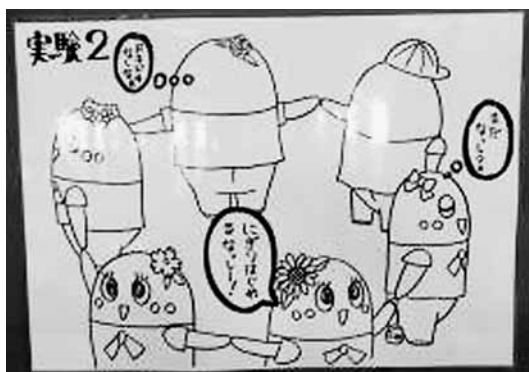
(観察・ワークシート)

ウ 周囲の友達に対して、積極的に実験で分かったこと、理解できたことを話したり、聞いたりすることができたか。(観察)

(觀察)

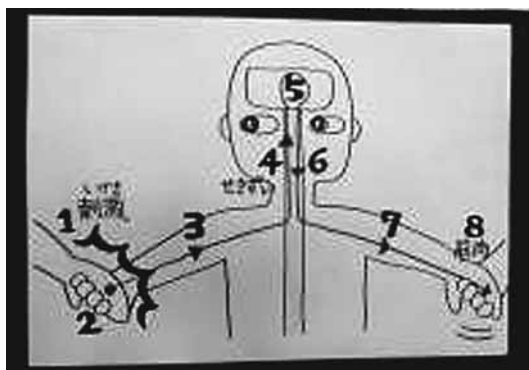
(7) 本時の資料

(図 1)



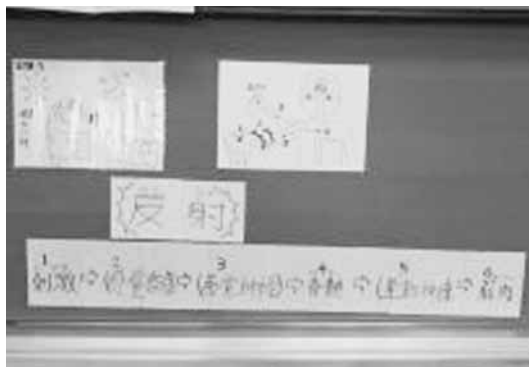
- ・実験2において、どのように並べばよいのかを分かりやすくするための説明図である。

(圖 2)



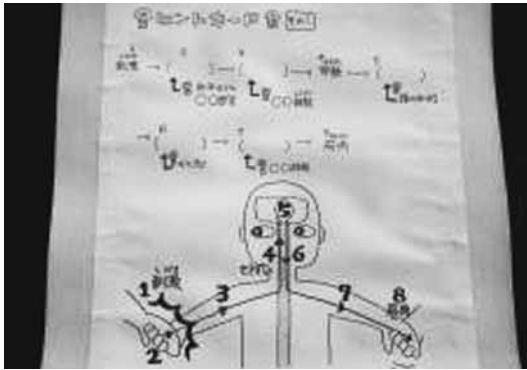
・刺激がどう伝わるかを分かりやすくするために、図に表したものである。

(図 3)



- ・黒板上の言葉は少なくし、視覚的に理解できるように工夫した。

(図 4)



- ・黒板の説明から自分でまとめる際に、理解が難しい生徒にはヒントカードを渡してワークシートを埋められるようにした。

(2) 授業実践の考察

特別支援学級の生徒にとって、この単元「動物のくらしやなかまと生物の変遷」では、自分のからだについての学習に直結している分野である。自分のからだの中身がどうなっているのかを知るとともに、自他の命を大切にすることや自分のからだを健康に保つためにはどうしていくとよいのかといった、社会で生活する上でさらに自他を大切にすること意識をもたせることにつながるものが生きていく上で大切なことだと考える。この単元で教師が指導する一番根幹とすることは、自分がどのように機能して生活できているのかを知り、より心身ともに健康に過ごすことができるように意識させることである。

そのためには、通常学級での授業よりもさらに視覚に訴える方法、個別的な支援における工夫、理解を深めるためにまとめの時間を多く取ること、そして反復学習で理解させることなど、教師側からの積極的な支援を進めていくことが重要である。

この授業で、ユニバーサルデザインを意識しながら工夫してきたのは、大きく分けると次の2つの支援である。本時で特に視点を当てて変容を詳しく見取ってきた「生かしたい生徒」の様子は以下の通りである。

① 視覚情報の活用（図1、図2、図3など）

特別支援学級においては、言葉が多い授業形態では授業への集中を続けるのが難しい。そこで、言葉といった音声による説明だけではなく、視覚的な情報を多く与えることで説明の言葉を焦点化できることはないかと工夫してきた。本時では、学習のめあてを黒板に掲示することに始まり、ほぼ全ての学習活動で積極的に視覚に訴えるようにしてきた。

生徒2への個別の支援では、特に、実験の順番を説明するときに有効であった。黒板に実験の流れを掲示したので、自分が何をすべきなのか見通しを持って実験に臨むことができたようである。本時では、手遊びなどは一切見られず、終始落ち着いて授業に参加することができた。積極的な取組により称賛される場面も多く、達成感を味わうことができたようである。

生徒5への個別の支援では、特に、図1・2・3の活用が効果的であった。できるだけ教師が話す時間を少なくしたが、図の提示によって活動内容の理解が視覚的に容易になり、戸惑う場面もなく楽しそうに実験に参加することができた。

② ワークシート、ヒントカードの利用（図4など）

特別支援学級の生徒の中には、文字を書くのが苦手な生徒も多い。そこで、生徒の状況に応じてワークシートの中に書き込む事柄にいくつかのパターンを設けた。さらに、生徒の発達段階によって、ヒントカードを用意し、生徒からの要請に応じて提示することで学習内容の理解が進むようにした。生徒には、学習内容が理解できるようにヒントカードを使うことが恥ずかしいことではないこと、それぞれが自分の持てる力を発揮して理解しようと努力することが、将来社会で生きていく中で必要な知恵であることを伝え、積極的に発言できる雰囲気を作っていくようにしてきた。

生徒2への個別の支援では、特に、ワークシートの活用が効果的であった。普段落ち着いて授業に取り組むことが苦手な生徒2にとっては、ワークシートの問いや指示に従って学習を進める作業は、知的好奇心を引き出し、実験の結果をじっくりと考えることにつながっていた。

生徒5への個別の支援では、特に、図4のヒントカードの活用が有効であった。生徒の実態に合わせて穴埋めする言葉を少なくしたことが功を奏したようである。生徒5は、ワークシートに重要な言葉を記入することができたことから称賛される場面もあり、学習の振り返りでも「できた。分かった。」という喜びを感じることにつながっていた。本時においては、いつもより自己肯定感が高まったものとする。

さて、前述した「生かしたい生徒」だけでなく、他の生徒も含めて今回の研究授業全体を振り返ってみると、視覚に訴える方法は、いわゆる教育的なユニバーサルデザインとして、教科書の説明だけではうまく理解が進まない生徒に対してとても有効な支援になることが分かった。クラス全体の理解が深まり、より分かる授業になれば、授業を通して「できた。分かった。」という達成感や満足感を得られるので、生徒一人一人の自己肯定感も高まってくる。成功体験を積み重ねて自分に自信が持てるようになれば、自尊感情と共に他者を思いやる気持ちも醸成されるので、学校や家庭での情緒的な安定をもたらし、よりよい社会生活を送ることができるような力もついてくる。

今回の授業実践を通して、特別支援学級の生徒は学習することに対して単純に理解力が乏しいのではなく、私たち指導者側が個に応じて必要な支援を行えば、生徒の理解度は深まるし、今後の一人一人の生活態度まで好転する可能性があるということに改めて痛感した。

また、今回は中学校の特別支援学級における理科での実践だったが、このユニバーサルデザインを活用するという方法は、学校種別や教科に関係なく、通常の学級においても同様の効果が期待できると考えた。私たち指導者側が、ユニバーサルデザインを活用するのは何のためなのかという初心を忘れずに、生徒一人一人に適切な支援を行いながら学習活動を展開する日々の積み重ねが大切だと考えた。

先進的な学校では、すでに全校体制でユニバーサルデザインを活用しているところもあると聞いている。これからも、個別の支援におけるユニバーサルデザインの有効な活用方法を先進事例に学びつつ、誰もが分かる授業づくりを目指していきたい。今後も引き続きクラス全体で、子供たち一人一人が、授業が分かるから楽しいし、楽しいから頑張っ

2 通常の学級に活かせるユニバーサルデザインの取組

本部会では、各学校から広く集めたユニバーサルデザインの事例を、場面によって「学習支援・生活支援・学校全体における取組」に分類した。さらに学習支援においては、活用する目的により、「説明・理解・学習教材・学習環境」の4つの観点に沿って整理し、生活支援、学校全体については、場面や活用場所によって整理した。

(1) 学習支援における取組

① 説明のユニバーサルデザイン

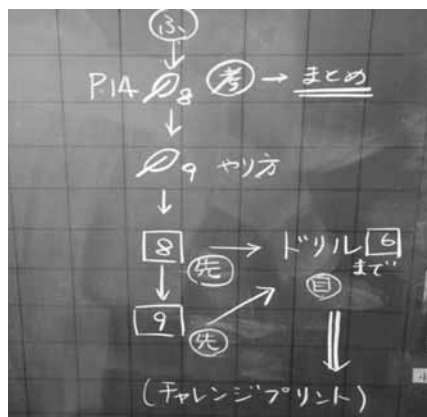
困り感

- ・授業の流れが分からず、次に何をやるか不安になる。
- ・今、どんなことをしているのか忘れてしまう。
- ・何を学習するのか分からない。どんな活動をすればよいのか分からない。
- ・どうやって学習していけばよいのか分からない。

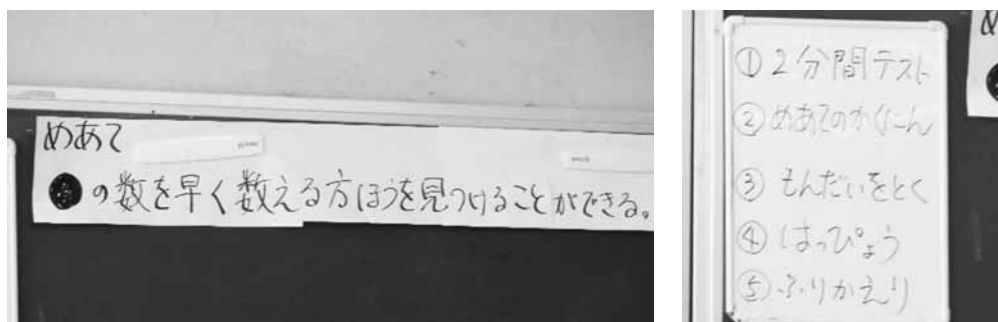
取組の工夫

【授業の流れの明示①】

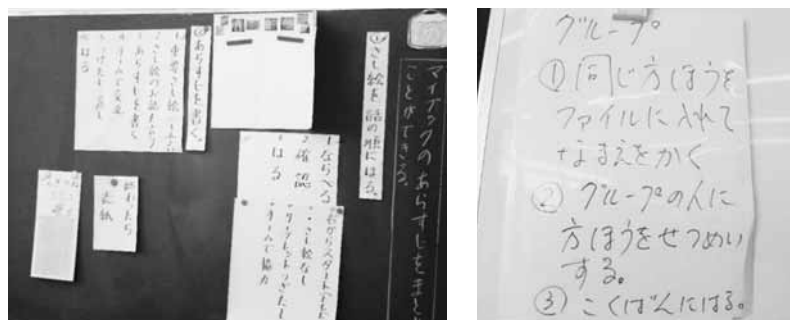
- ・授業の最初に、黒板の端の部分にその時間の学習の流れを板書しておく。



- ・本時のめあてや活動予定を表示する

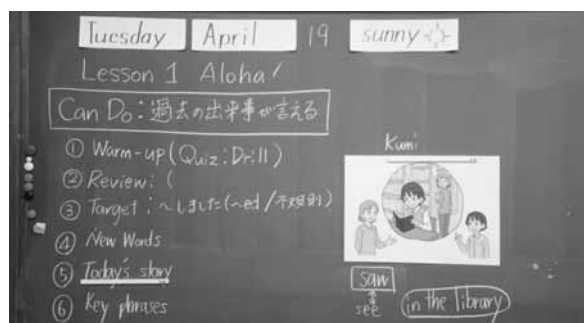


- ・活動の手順を明示し、学習の見通しが分かるようにする。



【授業の流れの明示②】

- 授業の流れを板書し、現在の学習事項をマグネットバーで示す。



【授業の流れの明示③】

- 授業の流れを、黒板全面を使って前もって板書する。授業が進むにしたがって空白の部分が埋まっていき、すべてが埋まると1時間の授業が終了する。
- 理科の授業などで、課題（疑問）、予想、観察実験のやり方確認、結果、考察などと、パターンが決まっているものはやりやすい。



成 果

- 子供たちが、前もってどれくらいの量を学習するのか把握し、見通しをもって学習に取り組めた。
- 学習活動の流れを子供が把握し、自分で先の問題に取り組むようになり、授業の空白の時間がなくなった。
- 自分たちがどの段階を学習しているのか、次に何をやるのかが分かり、安心して学習に取り組めた。
- 練習問題などで個人の進度に差ができた場合、問題を解くのが速い子供が、自ら先に学習を進めることができ、待ち時間・空白の時間がなくなった。

② 理解のユニバーサルデザイン

困り感

- つまずいていること、困っていることを先生に気付いてもらいたい。
- 重要なポイントがなかなかつかめない。
- ノートをとることが難しい。
- 自力解決が難しい。
- ヒントが出て簡単すぎてつまらない。

取組の工夫

【三角スタンド】

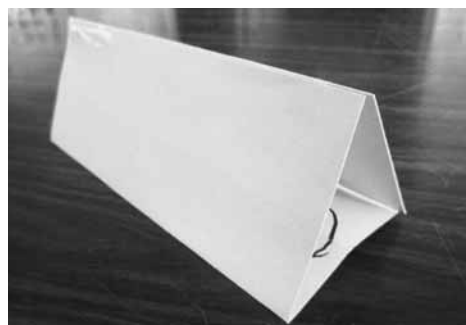


赤色…分かりません

黄色…質問があります

青色…分かりました、できました

- 三角のスタンドを机上に準備、どの色を教師側に見せるかで自分の学習の理解度を表現させる。



【マス目黒板・色分けして板書】



- 筆算のやり方の指導等で有効。桁などを読み間違えないようにマス目黒板を使うとともに、手順に応じて色を分けて板書する。

【学習内容の説明】

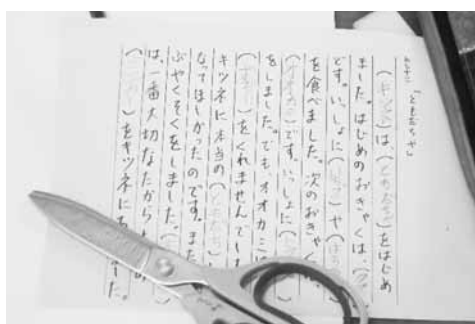
- 学習の内容を明示する。



- ・視覚化することで何をするのか理解しやすくして、自分の活動を選択させ学習に取り組めるようにする。



【プリントの工夫】



- ・穴埋め式にして思考の手がかりを与える。

【小黒板の利用】



- ・左側のマス目黒板（ノートと同じ字数）の通りにノートに書かせる。
- ・書くことが遅い子がいても、書き写す内容は残しておける。

【ワークシートの工夫】

- ・一つの学習活動に複数のワークシートを用意し、個人差に対応する。

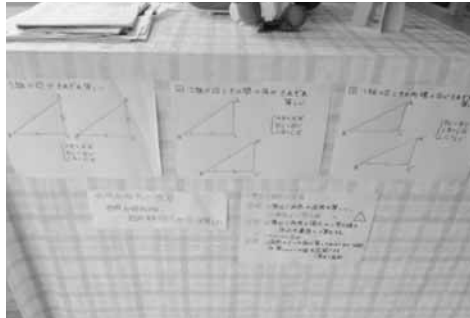
ワークシートA（難易度 高）
ヒントなし。自分で考える。

ワークシートB（難易度 低）
選択肢を提示し、○をつける。
ヒントをもとに自分で考える。

【ポイントの明示】



- ・受験時の面接におけるポイントを掲示する。



- ・授業で、注意すべきポイントを簡潔に表示する。

成 果

- ・自分の状況を把握し、表現することができるようになった。
- ・自分の状況を表現させることにより、自然と自らを振り返ることができるようになった。
- ・難易度の高い学習にも意欲をもって取り組めるようになった。
- ・ノートに何をどう書けばよいのか分かりやすくなった。(指導もしやすい。)
- ・時間がかかってもきちんとノートに書き写すことができるようになった。
- ・ノートや掲示物を見て、学習したことを確認できるようになってきた。
- ・注意、注目すべきポイントを掲示することで、定着が促進された。

③ 学習教材のユニバーサルデザイン

【タイムタイマー キッチンタイマー 時計模型】

困り感

- ・時間の見通しがもてず、終わりの時刻が分からない。
- ・時計が読めない。
- ・周囲の状況が読めない。

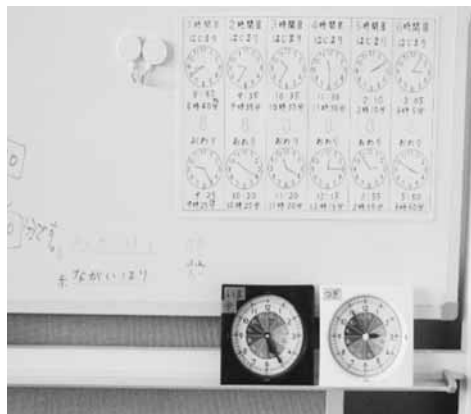
取組の工夫



- ・タイムタイマーは、数字が見やすく、赤い部分が減っていくことで残りの時間や終わりの時刻、課題を行う時間の量が分かる。また活動の切り替えが分かる。見通しをもちにくい児童生徒に有効である。
- ・キッチンタイマーは、音の刺激により行動の切り替えができる。数字が減っていくことで、時間が減っていく感覚が分かる。キッチンタイマーを適切に使うことができ、音に敏感でない児童生徒に有効である。



- ・「ながいはりが○まで」と黒板に表示したり、模型自体を貼ったりする。
- ・アナログ時計が読め、模型とアナログ時計とを比較して同じ時刻と分かる場合は有効。



- ・授業の始まりと終わりの時刻と、時計の針の位置を明示する。

成果

- ・一定時間の集中が保てるようになった。
- ・終わりの時間を聞くなどの質問が減った。
- ・時計が読めなくても、見通しがもてるようになった。
- ・周囲の状況をとらえにくい児童生徒でも、活動の切り替えが自らできるようになった。
- ・始まりと終わりの時刻を意識するようになった。
- ・時計を見て時間を考えるようになってきた。

- ・終わりの時間を聞くなどの質問が減った。

- ・時計が読めなくても、見通しがもてるようになった。

- ・周囲の状況をとらえにくい児童生徒でも、活動の切り替えが自らできるようになった。

- ・始まりと終わりの時刻を意識するようになった。

- ・時計を見て時間を考えるようになってきた。

【手順カード 掲示 ゲーム教材】

困り感

- ・公式や決まり事、関連性などを覚えにくい。
- ・細かい形を認識することが苦手。
- ・手順を覚えられない。

- ・細かい形を認識することが苦手。

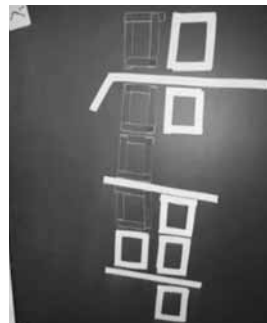
- ・手順を覚えられない。

取組の工夫

- ・割り算の手順カード



- ・位を色分けした掲示



- 大きな数の位を覚えるときに取り入れたゲーム教材

成 果

- ・手順を忘れても、自力で問題解決できた。
- ・意欲をもてるようになった。
- ・遊び感覚で理解が進んだ。
- ・部分に分けたり、唱えたりして覚えやすくなった。
- ・達成感や成就感を味わうことができた。

- ・意欲をもてるようになった。

- ・遊び感覚で理解が進んだ。

- ・部分に分けたり、唱えたりして覚えやすくなった。

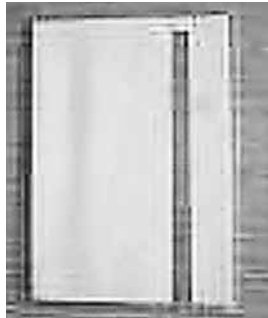
- ・達成感や成就感を味わうことができた。

【読み取りの工夫】

困り感

- ・読みながら行をまっすぐたどれない。
- ・文節が区切れない。
- ・漢字の読みが分からない。
- ・文字が小さいと読めない。

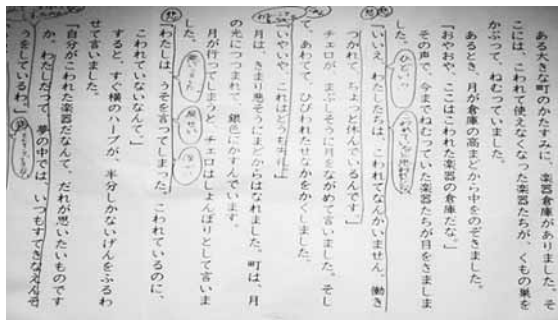
取組の工夫



- ・スリットが入っているプレートを教科書にのせ、読みたい行以外を見えなくさせる。



- ・デジタル教科書や拡大教科書を利用する。
- ・実物投影機で教科書を拡大して提示する。
- ・デジタル教科書を利用し、考える手掛かりになる部分を印刷して提示し、授業後も掲示しておく。



- ・本文の文章を大きく印刷し板書に利用する。
- ・国語の読み単元に有効。授業後は教室の学習コーナーに掲示しておく。

その他の取組

- ・文節ごとに空白が入り、ルビの振ってある教科書の本文を印刷して利用する。
- ・定規を当てながら読み、行がずれないようにする。
- ・あらかじめ自分の教科書にルビを振る。
- ・文節ごとに区切り線を引く。

成 果

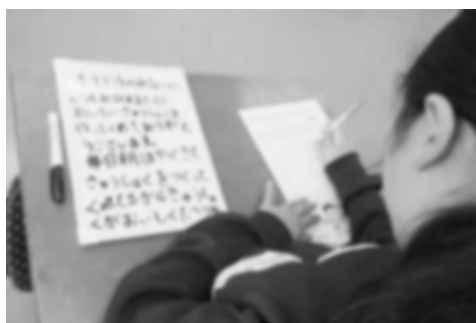
- ・行をとばしたり、途中からずれたりしないで読むことができた。
- ・言葉の切れ目が分かるようになり、スムーズに読めるようになることにより、文章の読解もしやすくなった。
- ・読むことへの抵抗感が減った。
- ・拡大コピーの掲示は、前時からの流れの想起が容易になった。

【思考の工夫】

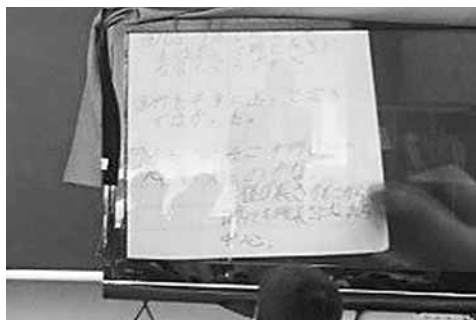
困り感

- ・友達の意見を受け入れることが難しい。
- ・自分の意見をどう表現したらよいか分からない。
- ・意見の交換がしにくい。

取組の工夫



- ・ホワイトボードを利用する。



- ・書画カメラで考えを発表

- 班で話し合っ、タブレットに入
- プロジェクターで各班の考えを一



その他の取組

- 授業中の注意事項を掲示する。
- 黒板にマス目を引く。(水性ペンでひくと、近くでは見えるが、遠くからは見えない。水拭きで消すことができる。)
- 言葉かけは、短く、肯定的に！

成 果

- ノートより、考えをまとめたり、深めたりしやすくなった。
- 簡単に書いたり消したりしやすいことで、思考が途切れにくく、より考えが深まった。
- ホワイトボードを交換して読んだり、並べて掲示したりすることで、異なる意見を比較しやすくなった。
- 授業時間の最後まで学習に取り組めるようになった。
- 友達の活動を見たり考えを聞いたりしながら活動に取り組み、自分なりの意見を言えるようになった。

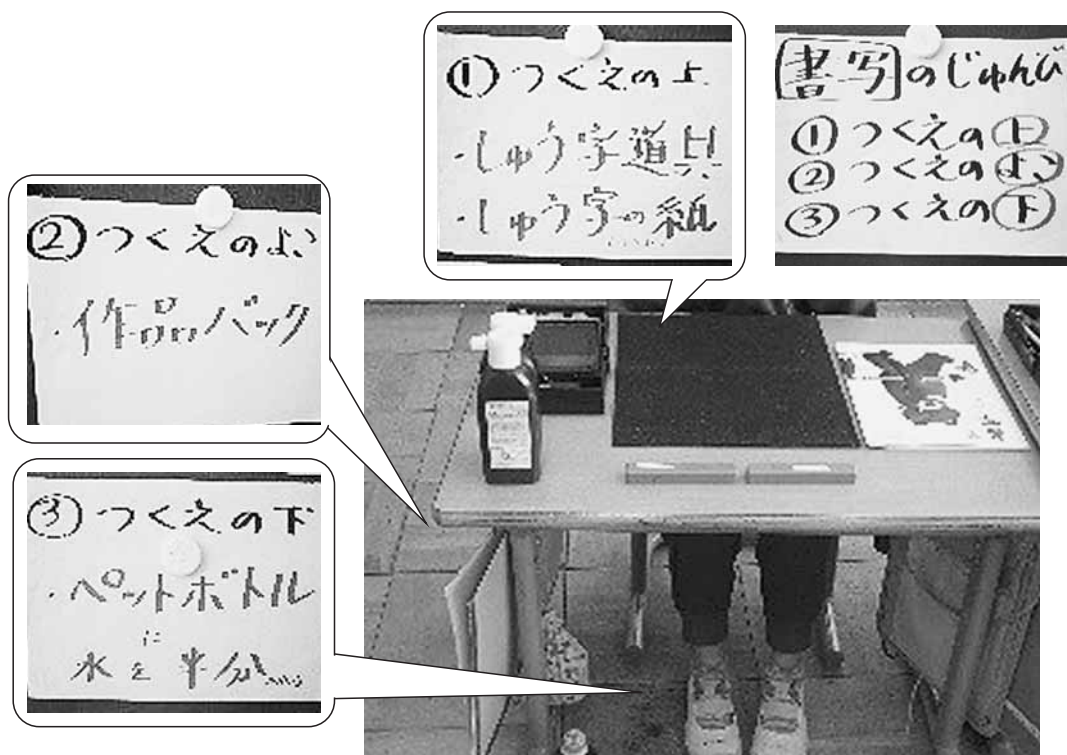
④ 学習環境のユニバーサルデザイン

【用具の準備】

困り感

- ・複数の指示が入らない。
- ・物の置き場所を理解しにくい。(空間認知が弱い)
- ・学習準備が遅い、できない。
- ・自分の意見をまとめられない。
- ・他人の意見を理解したり、反応したりすることが苦手。
- ・注意集中が弱い。

取組の工夫



成 果

- ・少ない指示で学習準備をしたり、注意を受け入れたりできた。
- ・机上の物を落としたり、気が散ったりしにくいため、集中を高め学習しやすい環境ができた。

【発表の仕方の表示】

困り感

- 発表の際、黙ってしまう。
- 話し方がまとまらず、言いたいことが相手に伝わりにくい。
- 指名されるまでは発表することを考えていても、指名されると緊張して言えなくなる。

取組の工夫

し つ も ん	い	け	ん	は な し か た	き き か た
○ はい、 ◇◇さんにしつもんします。 ・・・ですか。	それは、 ・・・だからです。 ちがいます。	○ はい、 ◇◇さんのかんがえとおなじです。 それは、 ・・・だからです。	○ はい、 ・・・です。 ○ はい、わたしは・・・だとおもいます。 それは、 ・・・だからです。	はなしかた	ききかた
				○ はなすひとのかおをみてきく。 ○ だまってさいごまできく。	

成 果

- 発表の際、そのやり方が分かり、戸惑うことが減った。
- 発表する手順が決まっていることで、聞き方が分かり、落ち着いて聞くことができるようになった。

(2) 生活支援における取組

① 活動の見通しのユニバーサルデザイン

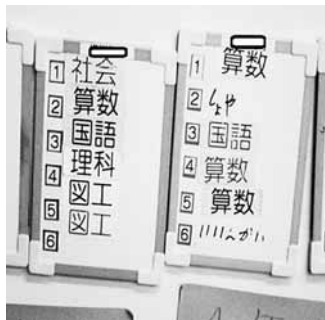
【一日の活動の流れ】

困り感

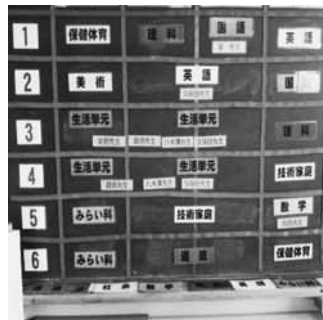
- ・今日の流れが分からない。
- ・1日の見通しが分からないと不安を感じる。

取組の工夫

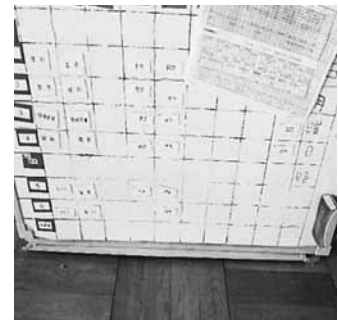
- ・個人の時間割



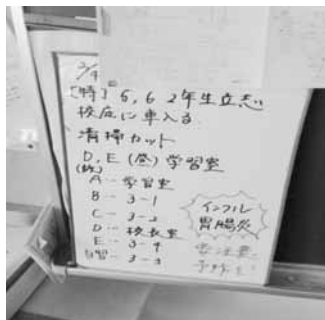
- ・授業担当者も表示



- ・個人の時間割の一覧表



- ・クラスで共通理解されている記号を使用して一日の予定を掲示



成 果

- ・見通しをもつことで、安心して生活できた。
- ・自分の楽しい教科があることが分かり、意欲をもって生活できるようになった。
- ・自分のやることが具体的に分かり、先を考えた行動が取れるようになった。
- ・1日のスケジュールを立てることのよさを感じた。

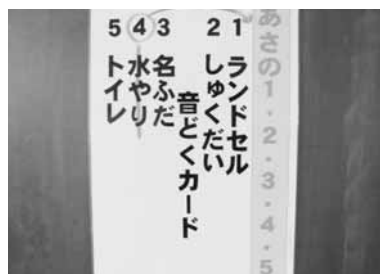
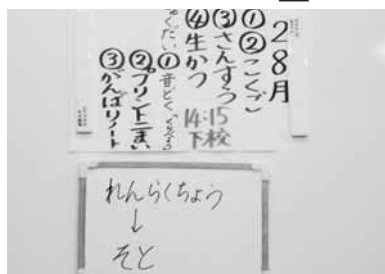
【朝の準備】

困り感

- ・何をすればよいか分からない。
- ・活動の見通しがもてない。
- ・何を提出したか分からなくなる。

取組の工夫

- ・提出するものの場所をそれぞれ明示する。
- ・一日の予定と朝やることを示しておく。



- ・「連絡帳を出したら外に遊びに行ってもよい。」ことを示している。



- ・連絡帳や宿題等はそれぞれ提出する籠を置き、自分でも一つずつ出したことを確認できるようにしている。

成 果

- ・朝登校した後、戸惑わずに活動に入ることができた。
- ・自分で提出物を忘れずに出すことができるようになった。

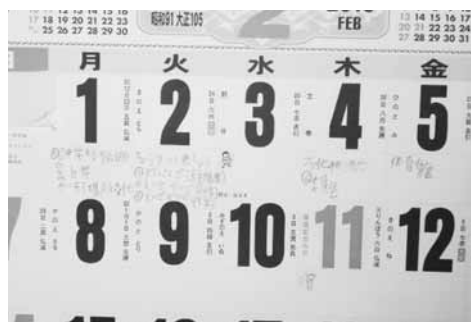
【大きな時間の流れ】

困り感

- ・月の流れが分からない。
- ・学期ごとの見通しが分からないと不安を感じる。

取組の工夫

- ・ 1 週間の流れ
- ・ 1 年間の流れ



成 果

- ・ 1 週間・ 1 か月間・ 1 年間などより長い期間を示すことで、楽しみがあることが分かり、意欲をもって生活できるようになった。
- ・ 思い出として、楽しかった行事や出来事を思い出すことができた。
- ・ 長い期間を示すことで、今の学習が今後の活動に活かせることが分かった。

② 日常生活のユニバーサルデザイン

【靴の入れ方】

困り感

- ・ 入れる場所が分からない。
- ・ どこに入れたか分からなくなってしまう。
- ・ 取り出しやすいように入れられない。
- ・ 揃えて靴が入れられない。

取組の工夫



- ・ 名前シールにより、どこに入れるのか、だれの靴なのかが示されている。
- ・ 端にかかとをそろえることで靴を取り出しやすい。



- ・ 靴の正しい入れ方を写真で示している。また、赤いラインを引くことで中央にそろえやすくしている。

成 果

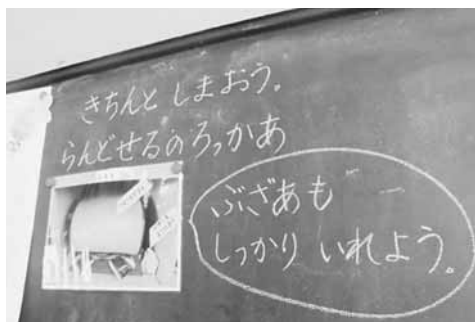
- ・ 自分の靴の場所がすぐ分かるようになった。
- ・ きれいに入れられるようになった。

【ロッカーの整理整頓】

困り感

- ロッカーへの荷物の入れ方が分からない。
- ロッカーから防犯ブザーが出ていると踏まれて壊れてしまう。
- 荷物の一部分がロッカーから出てしまい、つまづく原因になる。
- 教科書やファイルが乱雑に置かれてしまう。

取組の工夫



- 写真をラミネートして視覚に訴える掲示をする。
- ロッカーの上の掲示物で、どのように置いたときに整理された状態なのかを指し示している。



成 果

- 正しく入れることができるようになった。
- 入れ方が違う友達に教えてあげることができた。
- 荷物をしまうときに意識して片付ける姿が見られるようになった。

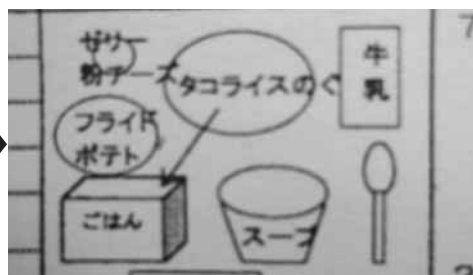
【配膳・食器片付け】

困り感

- 何をどの食器に配膳したらよいか分からない。
- 片付けに時間がかかる。
- 班の中で誰が何を片付けるかでトラブルになる。
- 食缶をワゴンに戻すときに戻し方が分からない。

取組の工夫

日	献立	配膳	片付け
1	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
2	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
3	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
4	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
5	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
6	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
7	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
8	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
9	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
10	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
11	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物
12	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物	ごはん、味噌汁、お肉の煮物、野菜の炒め物、果物





- 献立表にその日の配膳例を入れるスペースを作ってもら。
- 何をどのように食べるかも分かりやすく図解してもら。
- 片付け当番の表を掲示しておく。



- ご飯と汁物の食器が似ていて間違いやすいため、大きく示されている。
- 片付けもどこに何をおくのか、残食はどうするのかを示してある。

成 果

- 配膳がスムーズになった。
- 静かに片付けができるようになった。
- 指示をしなくとも自分たちで確認して動くようになった。
- 配膳を意識して互いにチェックしあうようになった。

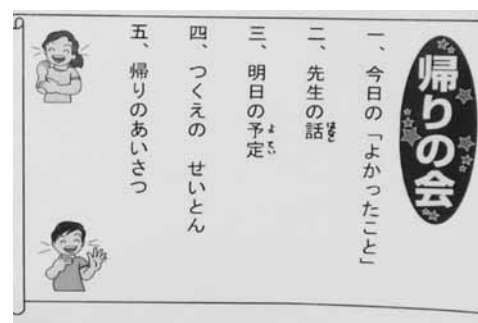
【朝の会・帰りの会】

困り感

- 朝の会・帰りの会の進め方が分からない。

取組の工夫

- 会の進め方の説明



- 表示にルビをふる。

成 果

- ・学習に向かう気持ちが高まった。
- ・字を丁寧に書けるようになった。
- ・落ち着いて学習に取り組めるようになった。
- ・授業中、出歩くことが減った。

【声の大きさ】

困り感

- ・その場に合った声の大きさが分からない。
- ・耳元で大声を出して相手に不快感を与えてしまう。

取組の工夫

- ・声のものさしを掲示して、人数や場所によって声の大きさを意識させる。
- ・特に支援を要する児童生徒には、感情の昂ぶりで大きい声を出してしまうことがあるため、常に声のものさしを意識させている。

成 果

- ・授業の開始時に常に確認してから取り組んだところ、大きな声を出すことが減った。
- ・繰り返し示すことで言われなくても意識するようになった。

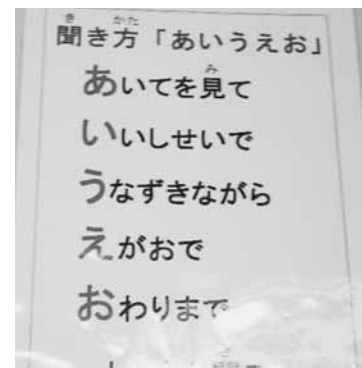
【聞き方】

困り感

- ・何に注意して聞いたらよいか分からない。
- ・静かにして聞くことができない。
- ・話を聞いても何をしたらよいか分からない。

取組の工夫

- ・全体が聞く姿勢になるまで指示を出すのを待つ。
- ・一度に出す指示を1つか2つにしぼる。
- ・指示を出す話し方、抑揚を工夫する。
- ・指示する内容を掲示する。
- ・聞き方あいうえおを掲示して、聞き方のポイントを示す。



成 果

- ・聞き方が分かった。
- ・静かに聞くことで、落ち着いて聞ける。
- ・話の内容が分かってきた。
- ・話の内容を整理して聞けるようになった。
- ・掲示してあることで後で振り返りができ、不安が減り、落ち着いて聞けるようになった。
- ・話の順番があることで、見通しをもって聞くことができた。

【人との距離の取り方】

困り感

- ・友達に近づきすぎて、嫌がられることがある。
- ・場面や人によって人との適切な距離が違うことが分からない。



取組の工夫

- ・その都度声をかけ、距離感を意識させる。
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・家族などの親しい人との距離・友達との距離・クラスの人との距離・知らない人との距離 |
|--|



成 果

- ・相手の嫌がらない距離が分かり、トラブルが減った。
- ・相手とのコミュニケーションが以前より取れるようになった。
- ・男女による違いが少し分かった。
- ・親しい、知っているなどの関係の違いを理解してきた。
- ・年齢による距離の違いに気付いた。

【トイレの使い方】

困り感

- ・和式トイレの使い方が分からなくて我慢してしまう。
- ・正しい使い方をせず、壊してしまったり汚してしまったりする。

取組の工夫



- ・イラストで使い方を分かりやすく説明している。

成 果

- ・安心してトイレを使うようになった。
- ・足でレバーを踏んだり、便器を汚したりすることが少なくなった。

【文字と画像の利用】

困り感

- ・言葉や説明での理解・把握が難しい。
- ・説明時に質問が多い。
- ・集中していることが苦手である。
- ・実際の体験・活動において、不安を抱きやすい。(行動の仕方が分からず、動きがとまってしまう。等)

取組の工夫

- ・パワーポイントを利用した視覚的な説明

〈特別支援学級〉

校外学習等で活動する場所や体験することについて、写真を見せたり疑似練習をさせたりして、活動の把握や行動スキルなどを理解させる。

〈通常学級〉

説明時に活動のしおり等とともに、学級全体にパワーポイントを見せ活動の方法を視覚的に大勢に理解させることができる。実際の画像があるので、体験することをイメージしやすい。

- ・実際のパワーポイント例〔電車に乗って行こう〕



成 果

- ・視覚的な要素があり行動のイメージ化がしやすく理解が図れた。
- ・映し出す画面の大きさを変えることで個から集団で活用できた。

(3) 学校全体における取組

① 教室環境のユニバーサルデザイン

困り感

- 教室によって掲示場所が違くと、分からないときにどこを見ればよいかすぐに探せず、ストレスが高まる。
- 刺激が多すぎて注意が散漫になりやすい。

取組の工夫

- すべての教室で、掲示場所を統一する。
- 教室内になるべく物を置かないようにする。
- 物の置き場所をはっきりさせ、分かりやすくする。

【教室前面】



- 基本的に物を置かない。その時間の授業で使わないものは目隠しする。
- 黒板右側に、授業中使用する機器の使い方など参照するものを貼る。

【教室廊下側】

- 前側に時間割表や日課表、献立表や保健だよりなどを貼る。
- 後ろ側は児童の学習を掲示する。



【教室背面】

- ・目標や係を掲示するなど、学年に応じて工夫してよい。
- ・背面黒板には今日の予定や週の予定を掲示する。



【廊 下】



- ・荷物の置き場所をはっきりさせる。
- ・毎時間使うものでない物は、なるべく教室に置かないようにする。

② 学校行事のユニバーサルデザイン

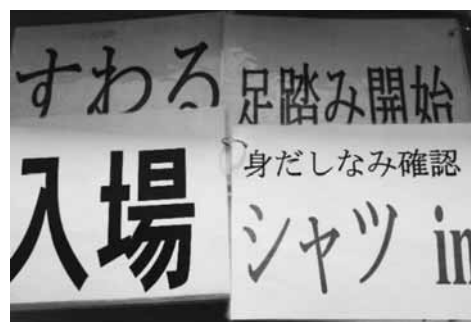
【運動会での指示の視覚化】

困り感

- ・行事の整列で指示が通りにくい。
- ・まわりがうるさくて何をするのか分からない。

取組の工夫

- ・運動会では召集係は笛を吹いてカードを掲げることで、指示を視覚的に全体に伝える。



成 果

- ・笛の音ですぐに指示を見て、行動できるようになった。
- ・担当者や係生徒が大声を張り上げることがなくなった。

【ナンバービブスの利用】

困り感

- ・リレーの時、自分の順番が分からない。支援者もとっさに支援できない。
- ・誰からもらって、誰に渡せばよいのか覚えていられない。

取組の工夫

- ・チームごとにカラービブスを着用させ、ビブ스에走る順番を付けておく。



成 果

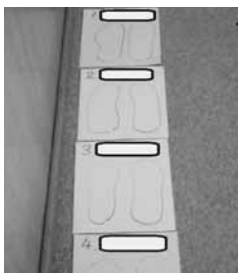
- ・自分のチームや走る順番を間違えずにリレーができた。
- ・普段授業に出ていなくても、戸惑わずに支援することができた。

【入学式の並び方】

困り感

- ・新入生はどこに自分が並ぶか分からない。
- ・同じクラスになった人の名前や顔を知らない。
- ・前の人との距離が分からない。
- ・向きが変わると並ぶ場所が分からない。

取組の工夫



- ・行事の時の並ぶ順番を表示。足型にあわせ、名前を示すことにより、並ぶ順番や場所、間隔が分かる。

成 果

- ・足型があることで、場所が分かった。
- ・名前が書いてあることで、前後の人の場所が分かった。
- ・様々な並び方を覚えられなかったが、顔写真や名前カードで示すことで、思い込みが減り、並べるようになった。

③ 保健室のユニバーサルデザイン

【身体計測の受け方】

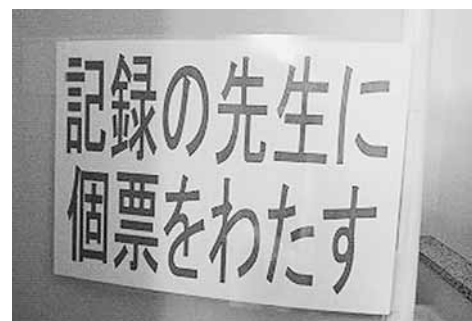
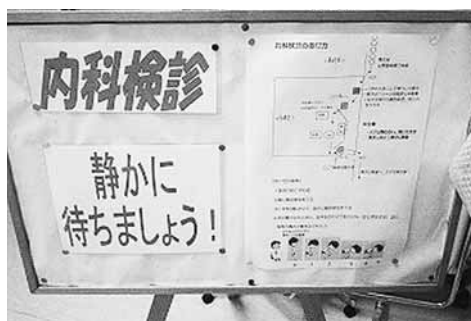
困り感

- ・身体計測や健康診断でどう動けばよいのか分からない。
- ・言葉で指示されるだけでは理解できない。

取組の工夫



- ・身長計、体重計にのるときの方法について分かりやすく示している。
- ・健康診断に使う道具について説明しており、診断時の不安を取り除いている。



- ・会場である保健室の入口に内科検診の動きが一覧になっている。
- また、保健室の内部でも指示が書いてあり、何をするのかが示されている。

成 果

- ・順番待ちの間に掲示物を見て、どのような動きをするのか理解できた。
- ・中に入ってからでも掲示を見ながら動くことができ、追加の指示をする必要がなかった。

【保健室清掃】

困り感

- ・清掃の仕方が分からない。

取組の工夫

- ・掃除の手順、担当などを図によって説明している。

成果

- ・清掃への取組がよかった。
- ・順番に取り組めるようになった。



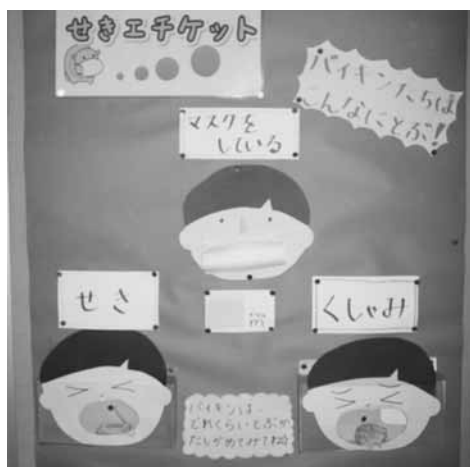
【保健室掲示】



- ・正しい姿勢の掲示
絵と身近なじゃんけんの手の形を生かして分かりやすく表示。



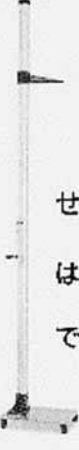
- ・背骨の立体模型
めくるクイズ付き。



- ・咳やくしゃみとウィルスの飛ぶ距離
口から飛び出すひもで視覚的に理解できるようにしている。



【計測器の説明】

ざいこうけい 座高計	しんちようけい 身長計	たいじりゅうけい 体重計
 すわったときの たかさを はかる 道具です	 たか せの高さを はかる 道具 です	 からだのおもさを はかる 道具です

- ふりがなで読みやすい工夫。人気キャラクターで興味を引く。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

- 視覚的に学習内容を理解することができるので、ユニバーサルデザインの活用は、特別支援学級の子供たちに大変有効であった。理科の実験では、方法や手順が分かり、体を動かしたり目や耳など五感を活用したりする活動も取り入れたので、全員が楽しく学習に参加することができた。
- 個別への支援計画にユニバーサルデザインの活用を明記しておくことで、T 1 と T 2 が同歩調で一人一人に合わせた支援を行うことが容易になり、授業を展開する上でも有効であった。誰もが分かる授業となることで、自信をもって答えようとする子供たちが少しずつ増えていると手応えを感じた。
- ユニバーサルデザインを意識していなくても、小学校低学年で行っているような視覚化する手法はユニバーサルデザインにつながるものが多く、小学校では高学年でも取り入れられてきている。また中学校においても、授業の見通しを示すような手立ては、子供に安心感を与え、有効だと分かった。
- 生活面においては、全校での統一が比較的とりやすいためユニバーサルデザイン化が進んでいるものが多い。また学習面では、「学習の決まり」のような基本的な内容では、ある程度統一が図られていることが分かった。
- 子供に「成功体験を積みせるようにする」という意識を教師がもち、「どう提示したら分かりやすいか」「どう説明したら分かってもらえるのか」と考え工夫することで、戸惑いの少ない生活やよりよい授業につながることが分かった。
- 本研究のために集めたユニバーサルデザインの実践や事例を分類し、次頁のように一覧表として整理した。分類の観点については別の意見もあると承知しているが、このように分類表に示すことによって、今後、各学校でユニバーサルデザインの活用方法を考える際に、何らかの参考になるのではないかと期待している。

〈ユニバーサルデザイン分類表〉

〈学習面〉	
① 説明のユニバーサルデザイン	・授業の流れの明示
② 理解のユニバーサルデザイン	・三角スタンド ・マス目黒板 ・色分けして板書 ・学習内容の説明 ・プリントの工夫 ・小黒板の利用 ・ワークシートの工夫 ・ポイントの明示
③ 学習教材のユニバーサルデザイン	・タイムタイマー、キッチンタイマー、時計模型 ・手順カード、掲示、ゲーム教材 ・読み取り、思考の工夫（スリット読み、デジタル教科書、拡大教科書、ホワイトボード、書画カメラで考えを発表、本文を拡大し書き込む形で板書、I C Tの利用）
④ 学習環境のユニバーサルデザイン	・用具の準備（視覚支援） ・発表の仕方の表示
〈生活面〉	
① 活動の見通しのユニバーサルデザイン	・一日の活動の流れ ・朝の準備 ・大きな時間の流れ
② 日常生活のユニバーサルデザイン	・靴の入れ方 ・ロッカーの整理整頓 ・配膳 ・食器片付け ・朝の会、帰りの会 ・下校の準備 ・正しい姿勢 ・声の大きさ ・聞き方 ・トイレの使い方 ・人との距離の取り方 ・文字と画像の利用
〈学校全体〉	
① 教室環境のユニバーサルデザイン	・教室（前面・廊下側・背面） ・廊下
② 学校行事のユニバーサルデザイン	・運動会での指示の視覚化 ・ナンバービブスの利用 ・入学式の並び方
③ 保健室のユニバーサルデザイン	・身体計測の受け方 ・保健室清掃 ・保健室掲示 ・計測器の説明

2 今後の課題

- 個別の支援をするには、どのような部分が理解を阻む原因となるのか、教材研究と共に子供一人一人の実態を正しく把握することが大切であり、指導者の力量が試される部分でもある。教科部会や学年会など、校内で情報を共有できるような時間を確保することが必要だと考える。
- 通常の学級で今行われているユニバーサルデザインを意識した取組がどんな子供に有効なのかを検証し、今後の利用に際し学級の実態にあった改善を加えていく必要があると考える。
- 参考となる事例が多く集まったが、教科や単元の違いで繰り返し使用することが少ないような内容ではユニバーサルデザイン化が難しいことが分かった。またユニバーサルデザインを多くの先生方に「どう広げていくか」という事例の共有化が問題になった。子供達の成長を考えると、小中や中高の連携や中学校区での共通化など、ユニバーサルデザインの共通化や連動も意識していくことが望ましいと考える。
- 支援をすることで「面倒くさい」などと言う子供や分かっているけどやらない子供も出てくる。また、「分かっているだろう」と思っているけど「分かっていない」現状があり、子供一人一人を理解することが重要になり、ユニバーサルデザイン化を進める中で、個や発達段階に応じた必要な支援の在り方が課題になる。
- 通常学級においては、様々な障害をもつ子供が混在しており、いくつかの支援を組み合わせることが必要になると考える。ユニバーサルデザインを進めた上に個別の支援をどう重ねていくか今後の課題である。